遊工房アートスペース

年間報告 2014

youkobo ART SPACE

遊工房アートスペースでのアーティスト・イン・レジデンス事業は
平成26年度文化庁文化芸術の海外発信拠点形成事業として採用されました。

遊工房アートスペース　2014 年　年間報告　目次

	内容	ページ
	はじめに - 2014 年を振り返って	4
	遊工房アートスペースについて – ヴィジョン、ヴァリューミッション	5
	寄稿 - クリス・ベニー	6
1	**主要事業活動概要**	10
1-1	AIR プログラム	10
1-2	ギャラリープログラム	16
1-3	Youkobo PLUS - ピアノ再生プロジェクト - stuttgard ものがたり	22
1-4	イベント - アーティストトーク、クリティーク・セッションなど	23
2	**遊工房関連活動**	28
2-1	AIR 活動を通した国際プロジェクト	29
2-2	AIR 人材育成	31
2-3	シンポジウム、フォーラム、展覧会、情報交換会など	32
2-4	AIR プログラムのアーカイブ整備と閲覧、コンサルタント	37
3	**地域活動、コミュニティアート**	
3-1	「アートキッズ」 - 子供の斬新なアートワークショップ	40
3-2	野外アート展「トロールの森」13 年目	41
	2014 年活動一覧 - Overview	43
	出版物、掲載記事など	46

**本文中の記号について*

文　文化庁による文化芸術の海外発信拠点事業

M　マイクロレジデンス関連事業

Y　Y-AIR (AIR for Young) 関連事業

E　欧州文化首都 (ECoC: Europian Capital of Culture) 関連事業

はじめに - 2014 年を振り返って

2014 年は、前年の「マイクロレジデンス元年」を継ぎ、遊工房アートスペースを中心に、AIR 事業、展示・イベント事業さらに、関連活動の事業を展開した。

「マイクロレジデンス」(*1)仲間との共同研究、さらにマクロな存在としての美術大学や欧州文化首都などとの協働事業が本格化した年となった。INSTINC（シンガポール）、ACOSS（アルメニア）、Home Bace（国際）、Public AIR（韓国）、Studio KURA（福岡）などのマイクロレジデンスのネットワーク活動、そして、「マイクロとマクロの協働」活動として、東京芸術大学・OJUN 研究室、女子美術大学・日沼研究室、武蔵野美術大学・長沢研究室などの美術大学との、Y-AIR 構想(*2)に基づいた協働の調査・研究活動、Kosice（スロバキア）、Pilsen（チェコ）、Riga（ラトビア）などの欧州文化首都(*3)の関係機関とのアーティストの受入・派遣など、積極的な活動展開が図られ、新たな発展につながっている。
2012 年度より始まった、「文化庁による文化芸術の海外発信拠点事業」(*4)に採択頂き 4 年目、AIR の着実な活動を通し、AIR の社会装置としての存在のアピール、海外交流・交換など引続き関係頂ける仲間・期間との連携を進め着実な成果が出た。

2014 年の年間を通した活動は、本報告書の通りである。特に印象に強く残る作家、作品、イベントは、以下であった。いずれも、2011 年 3 月 11 日の東日本大震災と福島原発メルトダウンなど、変化の激しくなった社会背景に呼応したアート活動としての意図を感じ取っている。オーストラリアからの Chris Benie の作品と遊工房での活動展開、英国からの Mark Dunhill & Tamiko O'Brien のフィールド活動と大学でのワークショップ、また、規模は小さいながらもグローバルな広がりになってきたマイクロレジデンス・ネットワークに関わる国際フォーラムの 3 回にわたる開催があげられる。昨年 7 月に始まった、遊工房の所有する古いピアノの再生プロジェクト「Stuttgart」修復出来上がり、新たなジャンルの仲間が増えたことも掲げたい。

(*1)　マイクロレジデンス

アーティスト等の創作・交流の拠点となるアーティスト・イン・レジデンスへの支援を通して，文化芸術の国際的な創造・発信の拠点形成を図ることを目的に，2011 年より始まった文化庁の AIR への支援事業。

(*2)　Y-AIR 構想

AIR と美術大学が連携し若手アーティストの滞在制作体験機会を提供するもので、芸術家を目指す若手美大生の、職業として、社会人として、また、生活者としてのアーティストになる為の貴重な体験プログラムとなるもの。個々の AIR と美術大学間の共同による実践を通し、国際間の交換プログラムへの拡大、継続性ある仕組みの構築を目指すもの。

(*3)　欧州文化首都

30 年の歴史を有す欧州文化首都制度の精神の基に、欧州文化首都と日本とのアーティストの滞在制作を通した交流ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ。EU・ｼﾞｬﾊﾟﾝフェスト日本委員会の協力・支援のもと、遊工房アートスペースの主導で ECOC 2009 Vilnius から始まった。

(*4)　「文化庁による文化芸術の海外発信拠点事業」

アーティスト等の創作・交流の拠点となるアーティスト・イン・レジデンスへの支援を通して，文化芸術の国際的な創造・発信の拠点形成を図ることを目的に，2011 年より始まった文化庁の AIR への支援事業。

遊工房アートスペースについて

アートは社会と一体の不可欠なものであり、人々の生活に潤いと気付きをもたらすものです。遊工房アートスペースは、独自のアート活動を通して、地域性と国際性、伝統文化と現代美術という一見異なる方向性を示す要素を繋ぎ、多様性が自然に受け入れられる場づくりや交流を実践しています。真摯に活動するアーティストの表現活動の支援と共に、地域社会の一員として、今後とも実践を通したアート活動を継続していきます。

ヴィジョン

遊工房アートスペースは、多様な創作活動に応える実践の場となることでアーティストを支え、アートの社会的な役割とその重要性を提示することを目指しています。

バリュー（核となる価値観）

・開放性と交流：

アートは広く開かれるものであると同時に、異文化の人々のコミュニケーションと理解を育てるために必要なツールであると考えます。

・フレキシビリティー（柔軟性）：

アートとアーティスト活動の本質に対して、私たちの活動はフレキシブルな取組み方が不可欠であると認識します。

・自律性：

コミュニティや他の組織と強固なネットワークを保つことを大切にしながら、アーティストと遊工房自身の個性と多様性を維持します。

ミッション

・真摯に活動を続けるアーティストの創作・発表の活動を支援します。（AIR プログラム、ギャラリー・プログラム）

・国内外のアーティストの交流、さらに地域社会の人々との対話を通した相互理解の醸成を図り、多様性が受け入れられる社会の形成を目指します。（アート･イベント、トーク）

・他の AIR センターやアートスペースとのネットワークを築き、より多くの人々がアートを楽しめる環境づくりに努めます。（Res Artis、J-AIR Network、AIR-J など）

・人々がアートに接する様々な機会を生み出し、アートが社会にとって不可欠であるという認識を広まるよう努めます。

遊工房アートスペースは以下のメンバーで運営されている任意団体です。

共同代表：村田弘子、村田達彦

スタッフ：針谷美香、椛田有理、ジェイミ・ハンフリーズ、江原彩子、辻 真木子

インターン: 辻 真木子 (2013.12 - 2014.03)、渡辺 遥 (2013.10 - 2014.03)、小津 航 (05 - 08)、小原春菜 (10 - 12)

寄稿– クリス・ベニー（2014 年遊工房レジデンスアーティスト）

悲劇の新たな目的

2013 年に制作した「The Kissing Swans」は、豪クイーンズランド州バンダバーグ地域を襲った洪水で被災したトレーラー・ハウスを彫刻に変容させた作品です。このタイトルはトレーラー・ハウスのフロント・ガラス上部に描いた 2 羽の白鳥から名付けられています。トレーラー・ハウスは発見された時の状態そのままで展示され、車内には遊び心溢れ、どこか馬鹿げたビデオ作品を上映しました。これらの要素は、トレーラー・ハウスで行われていた以前の生活を象徴的に参照しています。この「The Kissing Swans」は、カランビン・ビーチでのスウェル彫刻フェスティバルにて 2013 年 9 月 10 日から 23 日の間展示され、200,000 人以上の人々に鑑賞され、またこの作品は当該フェスティバルで大賞を受賞しました。

観衆からの反応は様々で、ある観衆はトレーラー・ハウスの製造元、型式、製造年について話し、子供たちは車内で上映されているビデオでカップルが踊り、キッチン・タオルを振り回し、鍋を叩く様を観て笑っていました。多くの人は作品の価格に納得がいかず、アートではなく実利主義だと考えたようです。ある人はトレーラー・ハウスの修復を想像し、またある人は浜辺での休日やキャンプ旅行での思い出に浸っていました。作品への関わりがどの様な形であれ、各観衆はトラウマを内包するオブジェクトに、もう一度目的を持たせる象徴的な行為に参加したのです。トラウマとは、直接的または非直接的に洪水、サイクロン、山火事などを経験している多くのオーストラリア人にとって馴染みのある出来事なのです。

この作品以降、オブジェクトに再度目的を持たせる行為が私の中で新たな意味を持つことになり、それまで興味の対象であったファウンド・オブジェクトの「日常性」ではなく、オブジェクトの持つ象徴的な可能性、途轍もなさに興味を持つようになりました。トラウマを経験したオブジェクトは、再現不可能な価値・意義を持っています。洪水に被災したトレーラー・ハウスには真正性と重々しさがあり、それは災害そのものを飾らず偽ることなく、ありのままを象徴し、芸術的または人為的行為が悲劇の及ぼす事実を超えることはないのです。

これらのことを踏まえ、世界のその他の地域で起きた災害で被災したオブジェクトやコミュニティを調査するリサーチ・プロジェクトを立案し、東京ワンダーサイトと S-AIR のパートナーである Asialink に提案をしました。この提案の目的は、東北地方太平洋沖地震と津波に被災した地域を訪れることにあり、東北地域への移動には札幌が理想的な拠点になりうると考えていました。調査テーマの繊細さを懸念する中、他のアーティストがどの様にこの災害に対応・反応したのか興味がありました。

詳細は覚えていませんが、どういうわけか札幌の S-AIR への申請に手違いがあり、日本での私の調査研究をサポートする Asialink（アジア圏で大規模なレジデンス・ネットワークを運営）から別の拠点候補を打診されました。

ソーシャル・メディアの効果的な使い方が分からないながら、フェイスブック上の「友達」に拠点候補を聞き、そこで遊工房アートスペースの名前、その規模、近隣地域への関わり、場所、ディレクターに関する話を何度も目にすることとなりました。札幌の件は残念ながらも、数日の内に提案書を修正し、遊工房アートスペースが 2014 年 11 月と 12 月の拠点となったのです。フェイスブックに感謝を!

事前調査を行ったにも拘らず、東北（いわき市、南相馬市、仙台市、陸前高田市、大船渡市）を北上したこの旅での経験は、全く予想だにしないものとなりました。震災の惨状と併存するように非常に明快かつポジティブな地元コミュニティの心持に心を打たれ、今まで経験をしたことがないくらい行く先々で温かく迎えられ、快くまた熱意を持って色々な場所を見せてもらいました。この在りようを目の当たりにし、悲しくもあり、同時に励みにもなりました。

陸前高田市では現在、町を 15 メートルかさ上げする建築プロジェクトが実施されており、町の前浜が大規模な工事現場と化しています。この前浜にあるガソリン・スタンドへの標識が津波の高さを物語っており、ここで初めてあからさまな津波の力を感じました。地上 18 メートルの高さにあるこの不吉な青い矢印を沿道から見上げると同時に、津波と瓦礫の濁流に巻き込まれる自分を想像したその瞬間、私の中で何かが変わりました。

大船渡市と陸前高田市には、ズタズタになりながらも東北地方太平洋沖地震とその津波を生き残ったオブジェクトが存在し、これらオブジェクトは現在、震災での出来事を思い起こさせる象徴として機能しています。大船渡市の前浜には、社会主義風な３階建ての建造物がぐったりと佇んでいます。不気味なオーラを放つこの建造物は比較的完全な形で残っていますが、それを取り囲む公園、歩道、階段、鉄道が混沌としています。地獄のような状況を脱し、今や生存を究極的に象徴するこのオブジェクトが新たに纏ったありのままの美しさに心打たれました。

陸前高田市では、これとは全く異なるタイプの記念碑が町の復興への決意を象徴しています。「奇跡の一本松」です。何千もの松林の中から唯一、津波を生き残ったこの松は海沿いの元ユースホステルの側に直立しています。現在は立ち入りが制限され近づくことができませんが、観光者が黙とうを捧げられるように看板が立っています。松の側の銘板には、その奇跡的な生還と迎えた死、そしてその後の復活が記されています。「奇跡の一本松」はすでに枯死していますが、復興に向け、内側から鉄のフレームで支え毅然と自然を定義しています。

遊工房アートスペースでは、調査の内容を反映する 2 つのプロジェクトを行いました。「Control Rooms」と呼ばれる映像インスタレーション作品と「The Waves」と呼ばれる写真プロジェクトの 2 つです。「Control Rooms」では福島第一原発事故と、特に原子炉に用いられている時代遅れのテクノロジーへの興味から、まず世界中の発電所管制室のイメージの収集を行いました。管制室のダイヤル、レバーやノブのイメージが表示される中、時折小型扇風機や家具のイメージが介入していきます。これらのイメージは凄まじい力と創造を遥かに超えた大災害を生み出すシステムを象徴しています。ビデオ編集ソフトを用いイメージをゆっくりと動かし重なり合うようにし、この 1 チャンネル映像インスタレーション作品は、畏怖と不条理の間の緊張感を増幅させます。

「The Wave」では「Surfing Life」、「 Tracks」、「 Surfer」や「Stab」等の大衆向けサーフィン雑誌からイメージを流用しました。これらの雑誌にはフルページでの光沢豊かな波が膨大に掲載されており、しばしサーファーの特集が行われていますが、この作品ではサーファーの代わりに古典からの人物や神々が、堂々と自信を持って携帯機器の上から波に乗ります。アテネ、アキレス、アポロ、ギルガメッシュやエンキドゥが波から突出し、下方を見下ろす、または波の頂点を見上げます。携帯機器をスワイプする行為が、このプロジェクトを現代社会が持つ一過的な文脈に結びつけます。またこの作品には、水（特にその力）と神話的且つどっしりとしたその破壊的な可能性が併存します。

海外のレジデンスに滞在するにあたり 2 カ月という期間は長くはありませんが、やりたい事が達成出来ると確信していまし、事実期待していた以上の事が出来たと思います。それも遊工房アートスペースのスタッフ・メンバーの寛大さとサポート、効率的かつ良く管理されたインフラに依るところが大きです。遊工房アートスペースが提供するサポートのレベルは、日本でスムーズに制作を行うのに十分なものでした。週 1 回のペースで村田さんご夫妻、ジェイミーさん、真木子さんとミーティングを行い、彼／彼女らの私のプロジェクトに対する純粋な興味を感じることが出来ました。また、私が経験したのと同様のサポートがその他の全てのレジデンス・アーティストに対しても提供されていると確信しました。遊工房アートスペースは小規模ですが、日本の文化シーンの継続的発展に寄与する重要な役割を担っています。地元と海外のコミュニティと真摯に関わりを持ち、その全ての活動の原点にはコラボレーションの精神が存在します。遊工房アートスペースに滞在する機会を得られたことをとても幸運に思います。今回の滞在を可能にしてくれた運命の神に感謝を。

Chris Bennie 2015

1. 主要事業活動概要

1-1. AIR プログラム

1-2. ギャラリー・プログラム

1-3. Youkobo PLUS

1-4. イベント

youkobo ART SPACE

1. 主要事業活動概要

1-1. AIR(アーティスト・イン・レジデンス)プログラム

アートは広く開かれるものであると同時に、異文化の人々のコミュニケーションと理解を育てるために必要なツールである。遊工房の運営する AIR は、真摯に活動を続ける自律するアーティストの滞在・創作・発表の活動のための場と機会となります。また、遊工房のネットワーク活動をベースとした活動の支援を行っている。AIR は、年 2 回、6 月と 12 月で募集をおこなっている。

アーティスト氏名（国籍）	滞在場所	滞在期間
ダニエル・ゴティン（スイス）文 M	Residence 2（studio2）	01.01 - 01.27
ダニエル・ゴティンは遊工房に滞在中、展示会場の空間の特性や可能性を考慮しながら、サイト・スペシフィックなインスタレーションを展開した。インスタレーションは、それぞれお互いに関係し合う複数のユニットからなる作品の集合体となった。異なった素材で作品を制作し、それらはサイト・スペシフィック・インスタレーションに集約された。ヨーロッパ文化と日本文化を組合せることによって、両国の文化的背景と類似点や相違点を持つ両社会間の懸け橋となり、また、このインスタレーションには、日本に滞在するヨーロッパ人アーティストである彼の状況が反映された。		
ダナ・ハリス (オーストラリア)	Residence 1（Residence1+ studio1）	01.01 - 01.31
「東京プロジェクト」 ダナ・ハリスは、調べて初めて明らかになるような、本来表に出ない側面を表現したサイトスペシフィックな作品に基づくプロジェクトを展開しています。彼女は、多様な素材を用い、その場所にある、マクロとミクロの外観と心に残った経験を調べ、それらを人の目に付くような形で表現することに興味があります。		

ミクリッチ・トノヤン (アルメニア) 文 M	AIR – A（Residence1 + studio1）	02.02 - 02.28

アルメニアのアーティスト、AKOS Cultural NGO のディレクター、ACOSS のアーティスト・イン・レジデンスの設立者、Artists'Union of Armenia のメンバー。1990 年-1994 年兵士としてナゴルノ・カラバフ戦争に巻き込まれ、死、破滅、絶望に直面し、その経験は今でも彼の創造的、社会的な活動に大きい影響を与えています。アートを通して危機に取り組み、その個人的、社会的、政治的、理想的な面を考え直そうとしています。AKOS Cultural NGO のディレクターとして世界中のアート団体と協力し、交流プログラムを展開しつつ、アルメニアの周辺において地域プロジェクトも組んでいます。

アナット・リトウィン (イスラエル) & ニッキ・ヘンドリックス (オランダ) 文 M	AIR – C（Residence2）	02.10 - 03.03

アナット・リトウィンは、イスラエル系アメリカ人のアーティストで、パブリック・アート・プロジェクトの「HomeBase Project」の創設者で、その美術ディレクターも務める。彼女は HomeBase チームと共同で、通年の研究および居住センターとしてベルリンに HomeBase LAB を設立しており、エルサレムの歴史的なハンセン病病院で実施するために計画された、次の HomeBase Project の構築を進めている。ニッキ・ヘンドリクスはオランダ出身。HomeBase コーディネーター、カルチャープロデューサー。今回の滞在では、Andy Warhol Foundation のサポートによってリサーチ・コーディネーターとしてアーティストと HomeBase Project の設立者のアナット・リトウィンの 4 都市の AIR 研究プログラムに参加した。

クリスチャン・アシュマン (ルクセンブルク) 文	AIR – A (Residence 1 + Studio 1)	02.10 - 03.03

クリスチャン・アッシュマンは、ルクセンブルク生まれ。ルクセンブルクとベルギーのブリュッセルを拠点に活動をするフリーの写真家である。「空地や存在と不在の中にある空間。空間の狭間。東京という迷宮。東京の写真を集める、東京で集められた写真。」をテーマに滞在制作を行った。

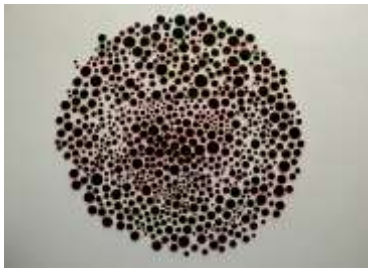
ケビン・チン (オーストラリア)	AIR –B(Studio2)	03.01 - 04.30

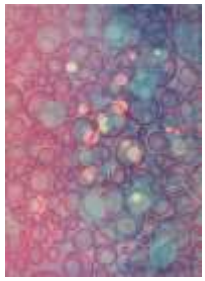
家と呼ばれる場所への捜索を通して、安楽でありながら不安定な風景を描き続けるケビン・チン。チンの油絵には、家庭的なものと行為を、移動や変位 というコンテキストに入れ替えている。個人的でありながら、文化的、性的、グローバル政治といったテーマも横切る。遊工房では、チンは都市空間において、日本人がどのように自然と関係を見つけているのか、それがどうアイデンティティや国民性を形作っているのか、という探求を行った。滞在の成果として、油絵と、日本で撮った写真を展示した。

※dianne tanzer gallery + projects 所属　助成：Ian Potter Cultural Trus

カタレ―ナ・レントゥミス (アメリカ)	AIR-B (Studio 2)	03.05 - 03.31

カタレ―ナ・レンテゥミスは、紙、版画、実験的なローテク光のインスタレーションを中心に活動しているビジュアル・アーティスト。滞在中、カタレ―ナは伝統的な製紙のプロセスと現代の生活や芸術を結びつけることに取り組む。和紙を中心に、インスタレーション、ドローイング、版画等の新作を展開した。遊工房の位置する地域や文化から刺激を受けながら、制作を行った。





ドリュウ・ペティファー (オーストラリア)	AIR - C (Residence 2)	04.01 - 05.01

ドリュウ・ペティファーは、メルボルンを中心に活動をするアーティスト、教育者、キュレーターであり、Monash University で博士号を取得中である。彼は、愛情表現、性別、政治的なテーマを、写真、ビデオ、インスタレーション、パフォーマンスを通して探求している。現在は、Bus Projects の代表者であり、Shepparton Art Museum の専門委員も勤めている。遊工房での滞在中は、様々な人へのインタビューを通して彼のテーマを積極的に追求した。

ピーター・バーク (オーストラリア)	AIR-A（Residence1 + studio1）	05.01 - 05.31

ピーター・バークは、オーストラリアのメルボルンを拠点としているアーティスト。遊工房での滞在機関中、街路とスタジオで展開しているパフォーマンス作品と、その記録を制作した。

マーク・ダンヒル ＆ タミコ・オブライエン (イギリス) 文 Y	AIR-A（Residence1 + studio1）	05.10 - 06.10, 07.10 - 08.20

ダンヒル&オブライエンは、1998 年から、ロンドンを拠点に共同制作を開始。今までに、イギリス、アイルランド、オランダ、イタリア、ドイツ、そして日本のギャラリーで作品を発表した。彼らは滞在期間中に、遊工房での滞在制作として、富士塚と水石に関するプロジェクトの調査、研究の成果を通した発表を行った。また、東京藝術大学 油画科 O JUN 准教授、彫刻科 大巻伸嗣准教授の協力のもと、7/14(月)～7/18(金)に同大学の学生と「Collaboration」と題したワークショップを行った。

ジェイ・コムダ (ポーランド) 文	AIR-C（studio1+Gallery）	2014.06.02 - 2015.03.31

ジェイ・コムダは、ポーランド出身のヴィジュアルアーティスト。彼の写真は、現代的な都市空間と、そこに暮らす人々を映し出している。遊工房での滞在期間中、彼が撮影した写真の展示と日本での制作をまとめた写真集を出版する予定。

ガリー・シリパ (ニュージーランド) 文	AIR-B（studio2）	06.08 - 08.04

ガリー・シリパは、ニュージーランドのオークランドを拠点に活動しているビジュアル・アーティスト。また、室内と室外の関係性の境界を拡大し続けている「TMD crew」というアーティスト団体のメンバー。この関係に深い興味を抱いたシリパは、この数年様々な概念と技術を試み続け、室内と室外の美的な要素を探求してきた。遊工房での滞在では、初めて経験する日本文化を味わうとともに、それらがどのように自身のアート活動に影響するのか、ということを探求した。

リズ・サージェント (アメリカ)	AIR-A（Residence1 + studio1）	06.11 - 07.11

リズ・サージェントは、人類の苛烈な営みがもたらす破壊と創造―厳しい自然の力と対比され、比較されるような―という構造、あるいは無意味な反復を探求する立体・空間作品を発表するヴィジュアル・アーティスト。遊工房での滞在中には、伝統的な技法で織られた撚り糸の網や編み細工をソースにインスピレーションを受けた制作を行った。この作品を通して破壊と再生への探求、そして人類の活動に適応し、それを超える世界の力の関係性を記述した。

ルイーズ・シュミッド (アイルランド/スイス)	AIR-A（Residence1 + studio1）	09.01 - 09.29

バーゼル（スイス）生まれ、グラスゴー在住のヴィジュアル・アーティスト。80 年代のチューリッヒの美術大学を卒業して以来、紙を用いた作品を創る。文化的激変の時代の中、チューリッヒを出発点に国内外でシリーズの展覧会を展開し、アーティストとしての活動が始まる。初期の作品は、イタリアのトランスアバンギャルド、そしてパンク・バンドでバイオリン奏者を務めた経験から影響を受けている。扱っているモチーフは、パリ、ニューヨーク、アイルランド、シェットランド（スコットランド）とレイキャビクでの AIR を通して進化してきた。最近の作品は、最も有力な階層構造への鋭い批評、そして天然資源の消費に対する懸念に密接に結びついている。

エミー・ホー (アメリカ)	AIR-B（studio2）	10.01 - 10.30

「空間」とは、身体的に世界を体験する直接的な媒体でありながら、我々は身の回りの環境への感受性をしばしば見逃してしまう。ホーの大規模なビデオ、インスタレーションは、精神と身体の関係への探求、そして、心理的、物質的なものとしての、我々の存在に注目をあてようとする試みである。遊工房では、日本の伝統的・現代的な美術と建築をリサーチした。日本とアメリカでは、日常の環境への取り組み方がどのように異なっているのか関心を持ち、それらの取り組み方が都市の空間と田園の空間においてどう異なるかを探求した。

ボリス・シルカ (スロヴァキア) 文 Ｙ Ｅ	AIR-A（Residence1 + studio1）	10.02 - 12.31

ボリス・シルカは、主に画家として知られているが、ビデオ、アニメーション、インスタレーション、立体作品も手がけている。現在は、スロヴァキアのブラティスラヴィアを拠点に活動。彼は、鑑賞者に視覚的な衝撃を与えることで、緊張感を増強させている。著しく暗い色彩で、不安感や寒気を感じさせる無人の自然風景を描いている。遊工房では、滞在中に訪れる場所を撮影した動画や音声、絵画、ドローイングを使用してオーディオとビジュアルの面から記録を残した。また、滞在中は「トロールの森 2014」へも参加した。

クリス・ベニー (オーストラリア) 文	AIR-B（studio2）	11.01 - 12.23

ニュージーランド出身、ブリズベン（オーストラリア）を拠点にしているアーティスト。遊工房の滞在中は、被災地で、災害によって使われなくなった物や建築物を、新たな作品に展開するためのリサーチを行った。このリサーチは、被災者への配慮が必要なため、地域住民、地元のアーティスト、遊工房のスタッフの協力のもと行われた。

※Asialink プログラム　支援：Arts Queensland、the Australia-Japan Foundation

1. 主要事業活動概要

1-2. ギャラリープログラム

人々がアートに接する様々な機会を生み出し、真摯に活動を続けるアーティストの創作・発表の活動を支援している。ギャラリーは、主に日本在住のアーティストが展示を行う。

2014 年度は、善福寺の若手アーティストユニット「凹地（くぼち）」が、4 月からの 1 年間を通して企画を担当した。

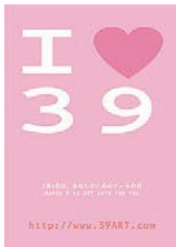
※凹地の企画展には「パトロン・プロ ジェクト」http://patronproject.jimdo.com/　も協力を行った。

展示タイトル	展示場所	展示期間
アーティスト氏名（国籍）		
We are stones	ギャラリー	01.15 - 01.26
安藤太朗（日本）		
京都市立芸術大学大学院を修了後、関西を拠点に活動。近作では、主に 2 つのシリーズ「Stone」と「Block」を展開している。 遊工房では、人と人との関係性をテーマにしたシリーズ作品「Stones」を発表した。		
金沢寿美個展 Rose Line project, in “ペンニョン島”	ギャラリー	02.12 - 02.23
金沢寿美（韓国）		
金沢寿美は、神戸出身(在日韓国人三世)のアーティスト。本展で彼女は、韓国最北西端に位置する 38 度線を目の前にした島、ペンニョン島での 3 ヶ月の AIR 体験の成果を発表した。「38 度線の島、100m の鉄条網、無数の赤いバラ、子供たちが古着で作ったバラ、ヨーロッパ・ピクニック計画」をキーワードに、ペンニョン島で行った「Rose Line Project」の世界観をインスタレーションで再構築した。		

レジデンス滞在制作活動報告・金井 学 **M E**	ギャラリー	01.18 - 01.26

金井 学（日本）

本展は、コシツェ(スロヴァキア)の AIR、K.A.I.R.との交換プログラム第 2 弾として、K.A.I.R.にて滞在制作を行った金井 学の活動報告展だ。金井の滞在制作の活動報告とともに、AIR 間のアーティスト交換について遊工房の取り組みを紹介した。また、AIR の可能性について様々な角度から参加者と討論を行った。



アーティスト・イン・レジデンス？シンガポール！ プロジェクト 6581 の現場から **文 M**	ギャラリー	03.26 - 03.30

村上 綾、村上 郁、椛田ちひろ、椛田有理（日本）

「Project 6581」は、マイクロレジデンスとしてローカルとグローバルを繋ぐ活動を続ける Instinc と遊工房によるコラボレーションプロジェクト。タイトル名は、シンガポール(65)と日本(81)の国際電話国番号を表しており、両国より 2 組 4 人のアーティストが相互に滞在制作を展開するものであった。本展は、日本から参加した村上綾、村上郁、椛田ちひろ、椛田有理の四名の作家による、シンガポール滞在成果発表であった。また、イベントとしてオープン・ディスカッションが行われた。

第一回凹地企画展「クレーターVol.1」	ギャラリー	04.05 - 04.20

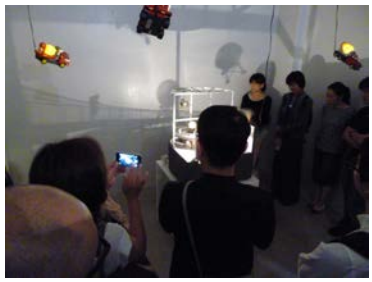
朝倉優佳、門田光雅、桑山彰彦、佐藤万絵子、ジェイミ・ハンフリーズ、竹内翔、平丸陽子、町野三佐紀、村上郁、安田豊（日本、英国）

善福寺で活動するアーティストユニット「凹地（くぼち）」の第 1 回目の企画展。本展は、遊工房がギャラリーでの企画、展示を凹地に委託するという試みの始まりの展示であった。絵画、彫刻、映像、インスタレーションと多様なジャンルの作品が出品された。展覧会初日には参加作家とゲストによるトークイベントを開催した。

第二回凹地企画展「ひかりのへや」	ギャラリー	04.19 - 04.27

市川平、土田祐介（日本）

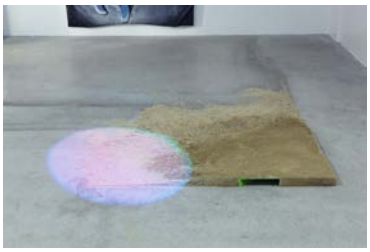
「凹地」の第 2 回目の企画展。彫刻家 市川平と、写真家 土田祐介の二人が、通常の空間とは一変し「暗室」となったギャラリーを、それぞれの「ひかり」で満たした。メディアや表現方法・世代など、立ち位置や視点も異なる二人の作品を閉じ込めた「ひかりのへや」で、遮蔽された空間に溢れる「ひかり」の様々な姿や表情を見せた。



cross dissolve	ギャラリー	05.24

清水総二、要田伸雄（日本）

クロスディゾルブは、一つの場面が徐々にフェードアウトしつつ、次の場面が徐々にフェードインする映像編集方法だ。絵画の制作プロセスや、生成されるヴィジュアルや素材となるモチーフにおけるフィクションとノンフィクションの関係などに興味をもつ清水。フィクションの観察からそれらの構成要素を選び出し、物質的なものと非物質的なものを同じ次元の素材として扱い、それらを作品において再配置し、ものごとの認識とそこからのずれ、ずれからのものごとの認識を表す試みを行う要田。二人の作家が異なるレイヤーを生んだ展示となった。



第三回凹地企画展「new ground」	ギャラリー	06.11 - 06.29

山内賢二、福村彩子（日本）

アクリルを使用し絵画を描く山内賢二と油彩を使用し描く福村彩子による新作展。日常という些細な出来事や感覚の蓄積によって見失う現実とイメージの差異。等価で色褪せた今日に埋没してしまった肌を通じた生の感触を手掛かりに絵画と向き合うことで、今日の「新たな地平」を再開拓した展示となった。

A Philosophy of Gardens #01	ギャラリー	07.25 - 08.10

小倉礼子（日本）

「A Philosophy of Gardens #01」は、2012 年に始まった小倉礼子の「庭」を巡る探求と、その成果をまとめた最初の展覧会である。ここでは見慣れた「庭」が変容する。そこに潜む小さなものたちが隠し持つ、無限の宇宙に出会う。本展で発表された『Planetary Garden』シリーズは、「庭」が抱える二重三重の構造へと分け入るその先駆けとなった。

第 4 回凹地企画展「夜の画廊」	ギャラリー	09.04 - 09.07

原汐莉、ナイスタック協力 10 年目（菊池容作・加藤笑平）、渡辺望、村上郁、安田豊（日本）

第 4 回の凹地企画展として、夜のみのオープンする「夜の画廊」を開催した。作品は、場所や光などにより見え方、感じ方が変化する。本展は、夜にしか見れない、夜だからこそ味わえる展示となった。

第 5 回凹地企画　上野梓個展「ひびの素描」	ギャラリー	09.20 - 09.28

上野 梓（日本）

上野 梓は、意図と偶発の間に生まれる線や構造体、時間性に注目し、粘土や紙などを用いたインスタレーションを制作する。陶器の釉薬の表面にできるひび、「貫入」をテーマにした作品を展開。音を立てて徐々に現れるひびの素描が、鑑賞者や展示空間の時間を独自のリズムで刻んだ。

Paper Object Festival 2014　欧州文化首都リガ報告展 E	Studio 2	09.20 - 09.28

ハヤシトモミ、矢嶋一裕、加藤かおり、柳井嗣雄（日本）

2014 年 6 月 27 日から 7 月 20 日までラトビア共和国のリガで行われた Paper Object Festival (POF)。参加した 4 名の作家による、成果報告展を開催した。POF 参加を通し、何を得て、何を思ったかを作品を通して発表した。初日は、作家によるプレゼンテーションとディスカッションを行った。エストニア在住のハヤシトモミもスカイプで参加し、リガでの活動をあらためて振り返ることになった。

第 6 回凹地企画展「公園を歩く、そして絵を描く」	ギャラリー	09.27

木村彩子、平丸陽子（日本）

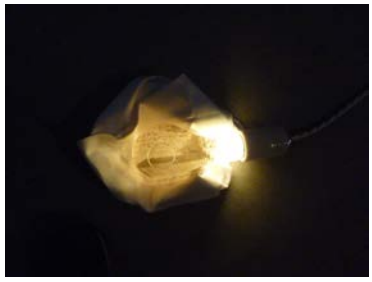
第 6 回の凹地企画展。木村彩子・平丸陽子の二人展。木村は、気になった植物や風景を写真に撮り、その一部分を素描することによってイメージを決め、それらを元に独特な質感で独自の世界観を描く。平丸は、日常の出来事や風景から感性を得て、独自の線と色彩により、抽象化された画面を描く。本展では、ギャラリー近くの緑豊かな善福寺公園でスケッチを行い、それをもとに制作した作品を発表した。

第 7 回凹地企画展　村上 郁　個展「Bulb Cities」	ギャラリー	10.01 - 10.19

村上 郁（日本）

第 7 回の凹地企画展。「電球都市（Bulb City）」は他人同士で交わされた観光絵ハガキと切れた電球を素材とする村上 郁の作品。現実の再現性の危うさ・記憶すること・忘れることを鑑賞者に問いかける。本展では、単独で制作してきた電球都市をインスタレーションとして展開した。

※ 国際野外アート展「トロールの森 2014」参加展示



ク リ ス マ ス カ イ	ギャラリー	11.03 - 11.23
桑山彰彦、谷口典央、安田豊、平丸陽子、常田泰由、菅祐子、Keiko Kurita（日本）		
第 8 回の凹地企画展として『ク リ ス マ ス カ イ』を行った。絵画、彫刻、版画、写真と、寒い季節を暖める賑やかな作品が集い、凹地の 2014 年を締めくくる展示となった。		

1. 主要事業活動概要

1-3. Youkobo PLUS

ピアノ再生プロジェクト － Stuttgart ものがたり

遊工房代表の村田が遊工房に長く存在する「Stuttgart」という、ドイツの地名を名前に持つ昭和初期に作られた日本のアップライト・ピアノの修復を決め、交流の有るピアニスト新井陽子の紹介により調律師の斎藤雅顕に修復を依頼。修復の経過を新井陽子が「Stuttgart 物語」としてブログに綴り遊工房が「Stuttgart」として冊子にまとめた。

1. 主要事業活動概要

1-4. イベント

アーティストトーク、クリティーク・セッションなど

遊工房では、国内外のアーティストと、より広いコミュニティとの交流を促すことを目的として、年間を通じてアーティスト・トーク、対談、さらにシンポジウムやワークショップなどのイベントを開催している。また、活動に関連する講演も積極的に行っている。「クリティーク・セッション」は、遊工房でスタジオ制作、ギャラリー展示を行なった作家が、より一歩踏み込んだフィードバックを得られる場として、遊工房スタッフ、遊工房に縁のある作家、美術関係者を集めて、率直な意見を交わす機会だ。

日程	アーティスト / イベントタイトル
アーティスト・トーク	
01.18	ダニエル・ゴッティン「BALANCE」
01.18	ダナ・ハリス 「tokyo project」
02.15	金沢寿美 「金沢寿美個展 Rose Line project, in , ″ペンニョン島″」
03.29	ケビン・チン 「ひとつの病棟」
04.05	凹地 「アーティストが企画するということ」
04.18	クリスチアン・アシュマン「空間の狭間」
05.10	市川 平、土田祐介 「ひかりを扱うことについて」
05.28	ピーター・バーク 「Loose footing」
06.14	清水総二、要田伸雄 「cross dissolve」
07.05	山内賢二、福村彩子『第三回凹地企画展「new ground」』
07.25	小倉礼子 × 港 千尋 「A Philosophy of Gardens #01」
08.08	マーク・ダンヒル & タミコ・オブライエン 「ごめん! どうしてもだめなの… いいね!もっといこう」
09.20	上野 梓 『第 5 回凹地企画　上野梓個展「ひびの素描」』
09.20	ハヤシトモミ、矢嶋一裕、加藤かおり、柳井嗣雄 「Paper Object Festival 2014　欧州文化首都リガ報告展」
09.27	ルイーズ・シュミッド 『「ジャングル」 不確かなヴィジュアル反応』
10.04	木村彩子、平丸陽子 『第 6 回凹地企画展「公園を歩く、そして絵を描く」』
10.26	エイミー・ホー 「The Sense of Space」
11.08	村上 郁 『第 7 回凹地企画展　村上 郁 個展「Bulb Cities」』
12.12	クリス・ベニー 「Control Rooms」
12.12	ボリス・シルカ 「Ink Places」

日程　　イベントタイトル

アーティスト

オープンディスカッション

03.09　　レジデンス滞在制作活動報告 「KAIR 滞在制作 2013.10 - 12」

金井 学

03.29　　東南アジアのアートとアーティスト・イン・レジデンス：彼らとの協働がもたらすもの

村上 綾、村上 郁、椛田ちひろ、椛田有理、ジェイミ・ハンフリーズ、太田エマ

12.14　　レジデンス滞在制作活動報告 「KAIR 滞在制作 09 - 11」

津田道子

パフォーマンス等

09.05　「ナイスタック協力 10 年目」パフォーマンス

菊池容作・加藤笑平

09.06　桂 扇生 独演会　秋の夜長のアート寄席

桂 扇生

11.07　Boris Sirka improvisational music session VOL. 1

ボリス・シルカ、池田 哲(ギター)

11.15　Boris Sirka improvisational music session VOL. 2

ボリス・シルカ、森重靖宗(チェロ)

11.22　Boris Sirka improvisational music session VOL. 3

ボリス・シルカ、木村由 (ダンス)、マーコス・フェルナンデス (パーカッション、電子楽器)

12.20　Stuttgart 物語

新井陽子(ピアノ)、木村由(ダンス)、野村雅美(ギター)

12.23　クリスマス会

桑山彰彦、谷口典央、安田豊、平丸陽子、常田泰由、菅祐子、Keiko Kurita

12.27　Boris Sirka improvisational music session VOL. 4

ボリス・シルカ、池田 哲(ギター)、新井陽子(ピアノ)

2. 遊工房関連活動

2-1. AIR 活動を通した国際プロジェクト

2-2. AIR 人材育成

2-3. シンポジウム、フォーラム、展覧会、情報交換会など

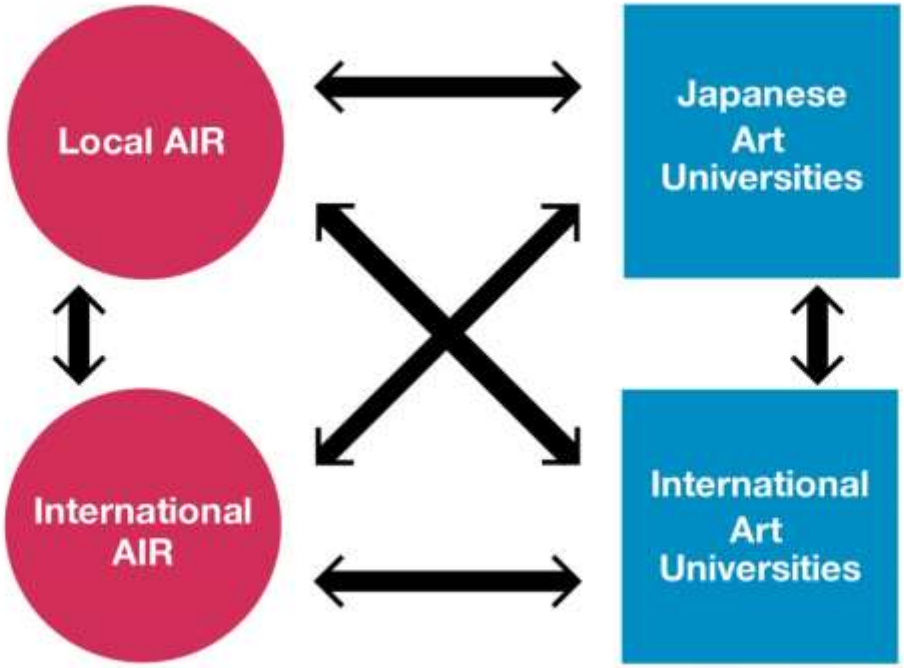
2-4. AIR プログラムのアーカイブ整備と閲覧、コンサルタント

youkobo ART SPACE

2. 遊工房関連活動

遊工房アートスペースは、AIR 事業の実践を通し、AIR がアーティストの活動の一要素としての位置づけとなり、また、AIR が社会において大切な役割を持つ存在となることを目指している。主として、海外からの滞在制作活動を希望するアーティストへの機会と場の提供を行ってきた AIR 活動を基本に、関連する活動として、国内アーティストの海外での活動の機会と場の創設も大切なミッションと考えて、海外での活動機会の創出として、類似の海外 AIR との交換プログラムの推進、さらに AIR 運営の実際を体験するインターンシップを通した人材育成など積極的に推進している。また、国内外の AIR プログラム及び施設に関する資料や情報を収集し、調査・研究すると共に、情報の公開に努めいている。国際的な AIR ネットワーク機関 Res Artis (本部オランダ) への加盟、また、日本国内の AIR をつなぐ試みである J-AIR ネットワーク会議への参画など積極的にネットワーク活動にも参加している。

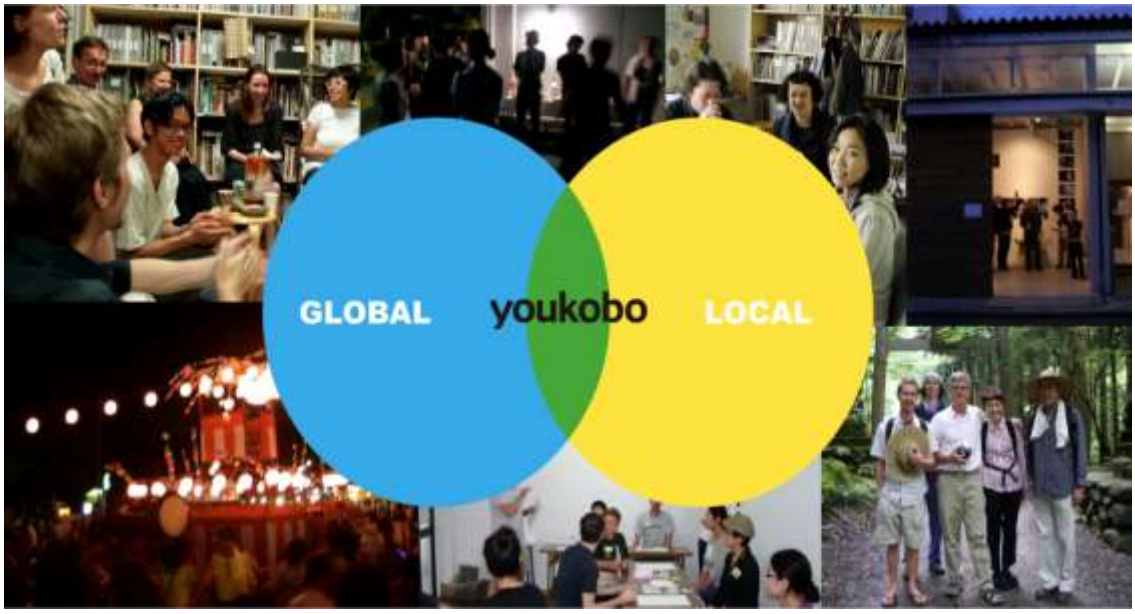
遊工房の滞在アーティスト、来訪する美術関係者や、地域の人々が交流できる場、「ラウンジ」を設け、コミュニティや他の組織とのネットワークを保つことを大切にしながら、アーティストの個性と多様性を認め、国内外との交流、さらに地域社会の人々との対話を通した相互理解の醸成を図っている。



2. 遊工房関連活動

2-1. AIR 活動を通した国際プロジェクト

アーティストの活動の場・機会としての AIR 活動を通した国際交流、AIR 間での相互のアーティストやリサーチャーの交換・交流プログラム、関連イベントへの派遣、受入などを実施している。



アーティスト交換プログラム		
1. PROJECT 6581 (シンガポール)		
01 - 02	INSTINC (シンガポール)　AIR プログラム M	**派遣**
椛田ちひろ、椛田有理		
2. マイクロレジデンス研究会		
02	遊工房 (東京、日本)　マイクロレジデンス調査・研究 文 M	**受入**
ミクリッチ・トノヤン (ACOSS) アナット・リトウィン (HomeBase プロデューサー)、ニッキ・ヘンドリクス（HomeBase LAB Berlin マネージャー）		
3. ECoC AIR ネットワーク		
09 - 11	KAIR (コシチェ、スロバキア)　AIR プログラム M E	**派遣**
津田道子		
10 - 12	KAIR (コシチェ、スロバキア)　AIR プログラム 文 M E	**受入**
ボリス・シルカ		
10 - 12	OPEN AiR (プルゼニ、チェコ)　AIR プログラム M E	**派遣**
松本恭吾		

2. 遊工房関連活動

2-2. AIR 人材育成

AIR 運営の実習を通した活動体験と、次世代人材の育成の実施。

1. 美術学生インターンシッププログラム	
女子美術大学 Y	
2013.10 - 2014.03	渡辺 遥 (アート・デザイン表現学科 アートプロデュース表現領域)
2013.12 - 2014.03	辻 真木子 (アート・デザイン表現学科 アートプロデュース表現領域)
10 - 12	小原春菜 (アート・デザイン表現学科 アートプロデュース表現領域)
東京藝術大学 Y	
05 - 08	小津 航 (油画第 7 研究室、O JUN 教授)
2. GIP - 国際奉公制度	
2014 年時点、検討中。	

2. 遊工房関連活動

2-3.シンポジウム、フォーラム、展覧会、情報交換会など

AIR に関わる会合、議論、講習会、展覧会などの開催、共催や参加の実施。

1. 国内でのプログラム	
フォーラム・シンポジウム	
02.21 - 02.23	**「Artist in Residence を考える―AIR、アーティストの創作活動の場（館）、 その社会装置としての仕組み、ネットワークの可能性」** M **DAY 1 @ アーツ千代田 3331** **DAY 2 @ 女子美術大学・杉並キャンパス** **DAY 3 @ 遊工房アートスペース**
中村政人 (アーツ千代田 3331)、日沼禎子 (女子美術大学)、菅野幸子 (国際交流基金)、小田井真美 (Move Arts Japan)、 ミクリッチ・トノヤン (ACOSS)、アナット・リトウィン (HomeBase)、ジェイミ・ジーザス・C・パセナ II、レオ・ヴァン・ダ・クレイ ショネッド・ヒューズ、渡邊遥 (女子美術大学)、松崎宏史 (Studio Kura)、松本恭吾、村田達彦 ほか	
05.16 - 05.19	**「都市と AIR：欧州文化首都の取り組み」** M Y E **DAY 1 @ アーツ千代田 3331** **DAY 2 @ 遊工房アートスペース** **DAY 3 @ 横浜市内関連施設 (黄金町、象の鼻テラス、BankArt1929NYK ほか)** **DAY 4 @ 女子美術大学・杉並キャンパス、東京藝術大学**
日沼禎子 (女子美術大学)、ペテル・シモン (ECoC)、アディラ・フォルディノヴァ (OPEN AiR)、吉本光宏 (ニッセイ基礎研究所) 菅野幸子 (国際交流基金)、山野真悟 (黄金町エリアマネジメントセンター)、金井 学、村田達彦 ほか	
10.29	**「マイクロレジデンスの可能性と課題」@ 尾道 AIR** M
小野 環、村田達彦、村田弘子	
11.02	**「レジデンスを語ろう」@ 国東半島芸術祭** M
遠藤みずき、吉田拓也、松崎宏史 (Studio Kura)、村田達彦	
11.21-11.23	**AIR ネットワークフォーラム「若きアーティストがつなぐ、国際的クリエイティブネットワーク」**文 M E **DAY 1 @ アーツ千代田 3331** **DAY 2 @女子美術大学・杉並キャンパス** **DAY 3 @遊工房アートスペース**
レジカ・ニディトゥエリヴ博士(ArtCamp)、マリタ・ニコトニヴ(ArtCamp)、北田薫、土方大、加藤巧、松崎宏吾、菅野幸子、東京藝術大学大学院美術研究科、高田真也、福井大学大学院教育研究科、神谷子、武蔵野美術大学大学院造形研究科絵画コース、藤原美、東京藝術大学大学院グラフィックデザイン領域、辻真木子、女子美術大学大学院アートプロデュース展開領域、渡邊麻、女子美術大学大学院ニットウェア展開領域、佐々木慎子、東京藝術大学大学院美術研究科、日沼禎子、女子美術大学、ヤマザキミノリ、女子美術大学、村田達彦 ほか	

情報交換	
03.11	**ECOC 都市企画担当者と会合 @ スウェーデン大使館** M E
村田達彦、村田弘子	
03.12	**欧州文化首都 AIR 関連担当者との情報交換・交流会 @ 遊工房アートスペース** M E
村田達彦、村田弘子	
09.10	**ＥＵ財団担当者との交流 @ オランダ大使館** M
村田達彦、村田弘子	
09.16	**ほんとうの話 「OPEN AiR (プルゼニ、チェコ)」@遊工房アートスペース** M
松本恭吾、Adela Foldynova	
10.25	**ほんとうの話 「KAIR (コシチェ、スロバキア)」@遊工房アートスペース** M
津田道子、Zuzana Kotikova	
AIR 訪問	
02.05 - 02.08	**福岡アジア美術館、StudioKURA、紺屋 2023** M
ミクリッチ・トノヤン (ACOSS)	
02.12 - 02.13	**陸前高田** M
ミクリッチ・トノヤン (ACOSS)、アナット・リトウィン (HomeBase)、ニッキ・ヘンドリクス (HomeBase) 松本恭吾、村田達彦、村田弘子、辻 真木子 (女子美術大学)	
02.14	**BankART1929、黄金町エリアマネージメントセンター**M
ミクリッチ・トノヤン (ACOSS)、アナット・リトウィン (HomeBase)、ニッキ・ヘンドリクス (HomeBase) 松本恭吾、村田達彦、村田弘子、辻 真木子 (女子美術大学)、渡辺 遥 (女子美術大学)	
02.16	**寿スタジオ & ゲストハウス** M
ミクリッチ・トノヤン (ACOSS)、アナット・リトウィン (HomeBase)、ニッキ・ヘンドリクス (HomeBase) 松本恭吾、村田達彦、村田弘子	
02.17	**ふじ公園、Reminders Photography Stronghold、向島百花園、 一寺言問集会所、東向島珈琲店** M
ミクリッチ・トノヤン (ACOSS)、アナット・リトウィン (HomeBase)、ニッキ・ヘンドリクス (HomeBase) 松本恭吾、村田達彦、村田弘子	
10.29 - 10.30	**尾道 AIR　対応者：小野 環** M
村田達彦、村田弘子	
11.01	**ストレンジャーズ・クラブ (国東、大分)　対応者：吉田拓也** M
村田達彦、村田弘子	
11.01	**いみテラス (国東、大分)　対応者：中野伸哉** M
村田達彦、村田弘子	

2. 海外でのプログラム	
展覧会・ワークショップ	
02	**PROJECT 6581 グループ展覧会 @ JAPAN CREATIVE CENTRE (シンガポール)** M
ShihYun Yao、Justin Lee、Ade Putra Safar Bin Fuad、Khairullah Rahim、村上綾、村上郁、椛田ちひろ、椛田有理	
07	**Paper Object Festival 2014 @ ECOC2014 (リガ、ラトビア)** E
矢嶋一裕、柳井嗣雄 ほか	
07	**Kuldiga Wall Painting Workshop @ ECOC2014 (リガ、ラトビア)** M E
鍵岡アンヌ	
フォーラム・シンポジウム	
11.26 - 11.27	**「Chungbuk Artist in Residence Exhibition- Accumulatios of Memories」** M **韓国・忠北レジデンス・セミナー @ 忠北文化会館 (清州市、韓国)**
村田達彦、村田弘子	
情報交換	
06.15	**OPEN AIR（Pisen）、ECOCAIRNetwork の可能性** Y E
Adela Foldynová (OPEN AiR)、Zuzana Kotikova (KAIR)、村田達彦、村田弘子	
プログラム参加	
07.14 - 07.25	**ArtCamp 2014 @ 西ボヘミア大学、プルゼニ (チェコ)** Y E
北田 匠、土方 大、加藤 巧、松本恭吾、菅 雄嗣 (東京芸術大学大学院)、高田慎也 (福井大学大学院) 神 祥子 (武蔵野美術大学大学院)、藤原美咲 (東北芸術工科大学大学院)、辻 真木子 (女子美術大学大学院) 渡辺志麻 (女子美術大学大学院)	
AIR 訪問	
02.07	**INSTINC (シンガポール) 対応者：ShihYunYeo** M
村田達彦、村田弘子	
06.13 - 06.14	**ArtCamp、OPEN AiR プルゼニ (チェコ)、ウィーン(オーストリア)、バーゼル(スイス)** M E
村田達彦、村田弘子	
11.26 - 11.27	**SeMA NANJI Residency (ソウル、韓国) 対応者：Sun Choi** M
村田達彦、村田弘子	
11.26 - 11.27	**Seoul National Studio Center (ソウル、韓国) 対応者：Kan Wu Yong** M
村田達彦、村田弘子	

3. 大学での講演等		
武蔵野美術大学 造形学部 油絵学科 油絵専攻、長沢秀之 研究室 M Y E		
04.24	村田達彦、村田弘子、池田 哲、ジェイミ・ハンフリーズ 「アーティスト活動と AIR」	**講演**
05.22	タミコ・オブライエン	**講演**
09.11	ルイーズ・シュミッド	**講演**
10.30	ボリス・シルカ	**講演**
12.04	クリス・ベニー	**講演**
女子美術大学 芸術学部 アート・デザイン表現学科 アートプロデュース表現領域、日沼禎子 研究室 M Y E		
12.19	ボリス・シルカ、ドーラ・ケンデラ	**講演**
東京芸術大学 美術学部 油画第 7 研究室、O JUN 研究室 M Y		
05.28	タミコ・オブライエン、村田達彦、村田弘子 「アーティスト活動と AIR」	**講演**
07.14 - 07.18	タミコ・オブライエン、マーク・ダンヒル 「Collaboration」	**ワークショップ**
尾道市立大学 小野 環 研究室 M Y		
10.29	村田達彦 「AIR と地域活動」	**講演**
電気通信大学 日本国際学生技術研修協会 Y		
12.13	村田達彦 「IAESTE 研修から半世紀」	**講演**

2. 遊工房関連活動

2-4. AIR プログラムのアーカイブ整備と閲覧、コンサルタント

(類似 AIR プログラム・マイクロレジデンスの顕在化、AIR 利用と AIR 設立の支援など)

遊工房では、AIR に興味があるアーティストや研究者など多くの方々に活用していただけるよう、AIR プログラムなど関連資料の充実を心がけている。アーティストからの AIR 滞在体験情報や募集情報の持ち込みも行っている。また、AIR プログラムの調査・研究を通し、類似の AIR プログラム「マイクロレジデンス」の存在を顕在化する活動も進めている。アーティストから、また、社会から広く知られ、その活動の意義が広く社会に浸透することを願っている。これまで収集した資料・調査・研究成果は閲覧可能である。

3. 地域活動、コミュニティアート

3-1.「アートキッズ」- 子供の斬新なアートワークショップ

3-2. 野外アート展「トロールの森」13 年目

youkobo ART SPACE

3. 地域活動、コミュニティアート

3-1. 「アートキッズ」 - 子供の斬新なアートワークショップ

「アートキッズ」とは子供を対象に、遊工房アートスペースの隣にある桃井第四小学校で月一回行われるアートワークショップである。14 年目を迎え、これまで多数のアーティストたちの指導により展開してきたこの活動は、参加した児童が創造的な可能性をより広げる機会を与えている。

2014 年は、日本で活動中の英国出身のアーティスト、ジェイミ・ハンフリーズを中心に、女子美術大学の学生も巻き込みワークショップを展開させた。同校、アート・デザイン表現学科 アートプロデュース表現領域 実技室・研究室の 3 年生の発想で、参加者が自然をテーマに制作した洋服を身につけファッションショーを行うというワークショップを行った。更に、同校 2 年生のグループが、「ハグ・プロジェクト」を行った。このプロジェクトは、T シャツにハグをした時の手形をつけるというもので、日本を元気づけたいという学生の想いのもと行われた。その他のワークショップでは、様々なテーマや素材で、ストップモーションを使用したアニメーション、コラージュからパフォーマンスまで行った。

日付	ワークショップタイトル
01.18	「段ボール世界」
03.08	「色砂で遊んでみよう」
06.14	「作り替える」コマドリ
07.05	「森の住人に大変身!」 (女子美術大学との共同企画)
09.27	「ピクセル・アートを楽しもう!」
11.09	「きみもぎゅ～術家!」 (女子美術大学の学生の団体「hug Project」による企画)
12.13	「Color + Collage - 色とコラージュで遊ぼう!」

3. 地域活動、コミュニティアート

3-2. 野外アート展「トロールの森」13 年目

「トロールの森」は、都立善福寺公園を主会場として 2002 年にスタートした、国際野外アート展である。大空を映す池と季節ごとに多彩な表情を見せる木々に囲まれた街の中の公園で、現代アートと出会う 3 週間。13 回目となる本年のテーマは「ニジムリズム」。自由な発想や表現をもった国内外のアーティストとパフォーマー計 31 組が作品の展示やパフォーマンスイベント、ワークショップなど、さまざまな形で自由に表現をした。また今回から「アートドロップス西荻 to 善福寺」という JR 西荻窪駅からトロールの森の主会場までを、パレードやまちかどアート、様々なパフォーミングアートでつなぐイベントも開催され、一段と賑やかなものとなった。

今回は遊工房アートスペースもサテライト会場となり、ギャラリーでは、凹地企画 村上郁個展「Bulb Cities」が、Studio1 では滞在中のスロバキアアーティストボリス・シルカが、オープンスタジオとして 11 月毎週末にライブパフォーマンス「Boris Sirka improvisational music session」を開催した。またシルカはメイン会場の都立善福寺公園でもインスタレーション作品を展示した。

イベントの最終日には、Y-AIR プログラムのフォーラムゲストとして招聘した、Ph.D. Lenka Kodytkova と Mgr. Marketa Kohoutkova（チェコ共和国／プルゼニ市／West Bohemia University ）も鑑賞し、レジデンスアーティストとも交流の時間を設けることができた。

トロールの森 イベント概要

会期・場所

11.03 - 11.23　都立善福寺公園（上池周辺）、遊工房アートスペース（杉並区立桃四コミュニティスクール、西荻窪界隈）

参加アーティスト（インスタレーション、アート作品、ワークショップ部門）

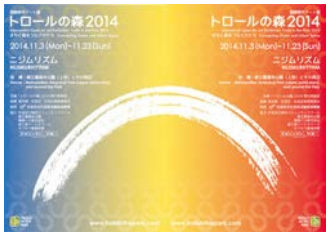
アマフラ、池ヶ谷務、岩城和哉+東京電機大学岩城研究室、岩田茉莉江、SiO (E-STILUS)、黒野裕一郎、サム・ストッカー、高島亮三
田口綾子、塚本万里、丹尾 敏、西山 仁、松田絵梨子、マヤ・ラマ、三木祥子、村上裕太、水谷俊博＋武蔵野大学水谷研究室、矢野華風
山本 健、水野歌鳳グループ、水谷俊博＋武蔵野大学水谷研究室、村上 郁（凹地／遊工房アートスペースギャラリー）
Boris Sirka（遊工房アートスペース滞在アーティスト）

参加アーティスト（パフォーマンス部門）

大坪光路、かぽーれ・かぽーれ・よいとな、佐藤ひろみと PINMY 倶楽部、ぜんぷくトリヲ、辻 康介・鳥越けい子、
パフォーマンスユニット・スカベッキ、フーマイム、YUMIKO、ラジオぱちぱち

主なイベント・プログラム

オープニング・パーティー 、アートツアー（アーティストと共に歩く作品鑑賞会）、パフォーマンス、ワークショップなど
オープンカフェ（トロールの森の期間中限定）



2014 Overview

Youkobo Art Space and Microresidence Network

		AIR・Studio Program				Gallery Program	insite event	Exchange Program			Local Event	Intern	networking	
		AIR A		AIR B	AIR C									
		S1	R1	S2	R2	Gallery	Talk Session	International		Univ			Local	International
Jan.	5		Dana Harris (Australia) 1.1-31		Daniel Gottin (Swiss) 12.3-1.31			Project 6581 KABATA Chihiro & Yuuri 1.4-2.10 opening @JCC 2.7		Jyoshibi	Art Kids	Joshibi Tsuji		
	10													
	15					Taro Ando 1.15-1.26								
	20	O.S 1.18-26		O.S 1.15-25										
	25												HHS	
	30													
Feb	5		Mkrtich Tonoyan (Armenia) 2.02-28	Micro Research	Anat Litwin & Nikki Hendrikx (Israel, Netherland) 2.10-3.03									Singapore
	10												Yokohama,Mukojima	
	15					Sumi Kanazawa 2.12-2.23	2.15 Kanazawa Talk				Art Kids		Riruzentakata	
	20						2.21-23 Micro Talk@HHS						Micro Forum	
	25													
	30													
March	5		Christian Aschman (Luxembourg) 3.01-4.30		Kevin Chin (Australia) 3.5-4.1	Manabu Kanai 3.5-9	3.9 Kanai Talk							
	10						Ecoc+AIR				Art Kids		HHS	
	15													
	20												ECOC-JAIR	
	25													
	30			O.S 3.26-30		Project6581 3.26-3.30	3.29 PJ6581 Talk							
April	5			Katharena Rentumis (USA) 4.1-5.1	Drew Pettifer (Australia) 4.2-4.30									
	10					KUBOCHI "CRATER vol.1" 4.5-20					Art Kids			
	15													
	20	O.S 4.19-27												
	25						4.21-27 Christian solo show @Luxen embassy			Musabi				
	30										Trolls in the Park spring			
May	5		Peter Burke (Australia) 5.1-31				Micro Forum					GEIDAI Ozu		
	10													
	15			Dunhill & O'Brien (UK) 5.10-5.31		KUBOCHI "Room of Light" 5.10-25				GEIDAI Musabi	Art Kids		Micro Forum	
	20													
	25	O.S 5.24					5.24 Peter Talk							
	30													
June	5	Dunhill & O'Brien (UK) 6.1-10			Jay Komuda (Poland) 6.2-2015.3.31						Art Kids			
	10													
	15		Liz Sagent (USA) 6.11-7.11	Gary Silpa (New Zealand) 6.8-8.4						GEIDAI Workshop				Pilsen
	20					Shimizu & Yoda 6.11-29								
	25													Vinna, Basel, Frankfurt
	30													
July	5	O.S 7.5-6					7.5 Liz Talk							
	10					KUBOCHI "Fukumura & Yamauchi" 7.5-19					Art Kids			
	15		Dunhill & O'Brien (UK) 7.10-8.20					Art Camp Pilsen						
	20			O.S 7.19-27										
	25													
	31					Reiko Ogura 7.25-8.10								
Aug.	5							OPEN AiR Pilsen						
	10			Closed										
	15													
	20			O.S D&O8.5-6		Closed								
	25	Closed		Clased										
	30													
Sep.	5		Louise Schmid (Swiss) 9.1-29			KUBOCHI "Yoru no Garou" 9.4-7				Musabi	Art Kids			
	10													
	15								KAIR Kosice Michiko Tsuda					
	20													
	25			POF Report 9.20-9.28		KUBOCHI "Azusa Ueno" 9.20-28	*11.21*-23 Micro Forum							
	31	O.S 9.27					9.27 Louise Talk							
Oct.	5		Boris Sirka (slovakia) 10.2-12.31			KUBOCHI "Hiramaru & Kimura" 10.1-19	Symposium @Onomichi					Joshibi Kohara		
	10						Symposium @Kunisaki							
	15			Amy M. Ho (USA) 10.1-10.30						Jyoshibi	Art Kids			
	20													
	25												Onomichi	
	30						10.26 amy Talk			Musabi			Kunisaki	
Nov.	5													
	10					KUBOCHI "Kaoru Murakami" 11.3-23	11.8 Murakami talk				Trolls in the Park 2014			
	15	O.S 11.8-9					11.8 Boris Live event							
	20	O.S 11.15-16		Chris Bennie (Australia/NZ) 11.1-12.23			11.15 Boris Live event							
	25	O.S 11.22-23					11.22 Boris Live event						Micro Forum	
	30													Korea Sympo
Dec.	5									Musabi				
	10									Dentsu U				
	15	O.S 12.10-23		O.S 12.12-14		KUBOCHI "KU RI SU MA SU KA I" 12.10-23	12.12 Boris & Chris Talk				Art Kids			
	20						11.8 KUBOCHI talk							
	25						Piano Project							
	30													

出版物、掲載記事など

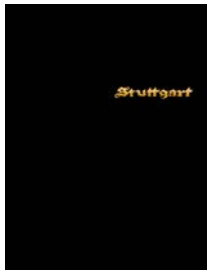
1. 出版物
2. 動画記録
3. AIR・展覧会カタログ、案内状など
4. 掲載記事

youkobo ART SPACE

出版物、掲載記事など

1. 出版物

日付	メディア / 内容
02	PROJECT 6581: PARALLEL RECEPTION & COUNTER CONNECTION
03	MICRORESIDENCE! 2013 / 2014
09	European Capital of Culture, ECoC 2014 Riga
	Repot on a Collaborative Exchange between Japan
12.20	昭和初期のピアノ再生プロジェクト　「Stuttgart 物語」

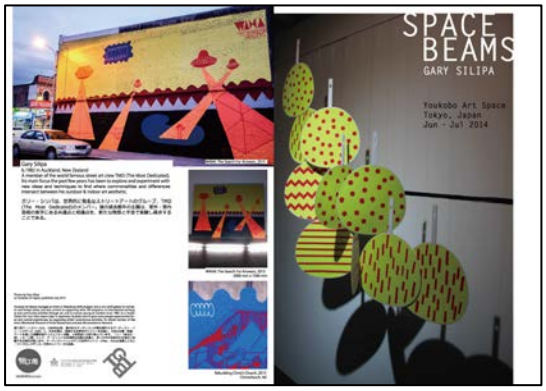


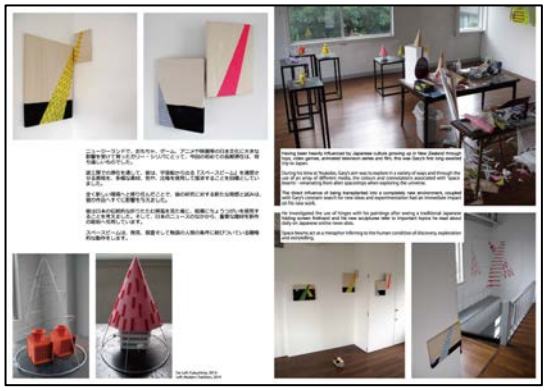
2. 動画記録

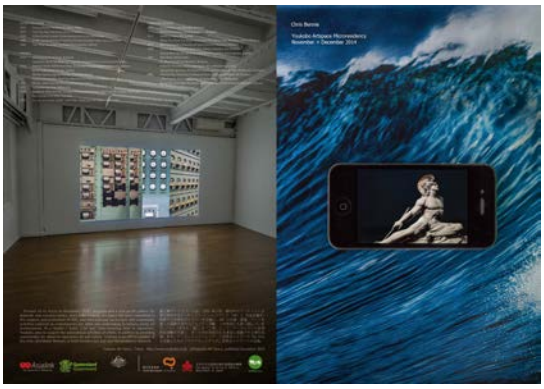
日付	タイトル
02	MICRORESIDENCE! 2012
02	Artist in Residence (AIR) を考える part. 1 - 4
09	Micro and Macro Collaboration

3. AIR・展覧会カタログ、案内状など

会期	イベントタイトル / アーティスト	内容
01.15 - 01.26	安藤太朗 「We are stones」	案内状・プレスリリースフライヤー
01.15 - 01.26	ダニエル・ゴティン 「BALANCE」	AIR カタログ・案内状
01.18 - 01.26	ダナ・ハリス 「tokyo project」	案内状
02.12 - 02.23	金沢寿美 「金沢寿美個展 Rose Line project, in , ”ペンニョン島”」	カタログ・案内状・ポスター
03.05 - 03.09	金井 学 「レジデンス滞在制作活動報告」	フライヤー
03.26 - 03.30	村上 綾、村上 郁、椛田ちひろ、椛田有理 「アーティスト・イン・レジデンス？シンガポール！ プロジェクト 6581 の現場から」	フライヤー
03.26 - 03.29	ケビン・チン 「ひとつの病棟」	フライヤー
04.05 - 04.20	朝倉優佳、門田光雅、桑山彰彦、佐藤万絵子、ジェイミ・ハンフリーズ、竹内翔、平丸陽子、町野三佐紀、村上郁、安田豊 『第一回凹地企画展「クレーターVol.1」』	案内状・フライヤー
04.19 - 04.27	クリスチアン・アシュマン「空間の狭間」	AIR カタログ・案内状
05.10 - 05.25	市川平、土田祐介 『第二回凹地企画展「ひかりのへや」』	案内状
05.24	ピーター・バーク 「Loose footing」	フライヤー
06.11 - 06.29	清水総二、要田伸雄 「cross dissolve」	案内状
07.05 - 07.19	山内賢二、福村彩子 『第三回凹地企画展「new ground」』	案内状
07.25 - 08.10	小倉礼子 「A Philosophy of Gardens #01」	案内状
07.19 - 07.27	ガリー・シリパ 「スペース・ビームズ」	AIR カタログ・案内状
08.08 - 08.10	マーク・ダンヒル & タミコ・オブライエン 「ごめん! どうしてもだめなの… いいね!もっといこう」	フライヤー
09.04 - 09.07	原 汐莉、ナイスタック協力 10 年目(菊池容作・加藤笑平)、渡辺 望、村上 郁、安田 豊 『第 4 回凹地企画展「夜の画廊」』	フライヤー
09.20 - 09.28	上野 梓 『第 5 回凹地企画 上野 梓 個展「ひびの素描」』	案内状
09.20 - 09.28	ハヤシトモミ、矢嶋一裕、加藤かおり、柳井嗣雄 「Paper Object Festival 2014 欧州文化首都リガ報告展」	簡易冊子・案内状
10.01 - 10.19	木村彩子、平丸陽子 『第 6 回凹地企画展「公園を歩く、そして絵を描く」』	案内状
11.03 - 11.23	村上 郁 『第 7 回凹地企画展 村上郁 個展「Bulb Cities」』	案内状
12.12 - 12.14	クリス・ベニー 「Control Rooms」	AIR カタログ・案内状
12.10 - 12.23	ボリス・シルカ 「Ink Places」	AIR カタログ・案内状
12.10 - 12.23	桑山彰彦、谷口典央、安田豊、平丸陽子、常田泰由、菅祐子、Keiko Kurita 「ク リ ス マ ス カ イ」	案内状
01 - 12	アートキッズ プログラム案内	フライヤー (各回)


SPACE
BEAMS
GARY SILIPA
Youkobo Art Space
Tokyo, Japan
Jun - Jul 2014





POSTCARD
料金別納郵便
空間の狭間
THE SPACE IN BETWEEN
クリスチアン・アシュマン
Christian Aschman
Open Studio
2014.4.19 (土) - 4.27(日)
12:00-19:00(最終日 17 時まで)
Opening: 2014.4.19 18：00-
Exhibition
2014.4.21(月) - 6.27(金)
土日祝日休館
10:00-12:00, 14:00-17:00
Opening：2014.4.18 18:00-

Kevin Chin ONE WARD
Wed 26 – Sat 29 March 2014
Opening Sat 29 March 7:30 – 9:00 pm
Youkobo Art Space, Tokyo
www.youkobo.co.jp

Sorry no, Yes and..
マーク・ダンヒルとタミコ・オブライエン展
「ごめん！どうしてもだめなの・・・　いいね！　もっといこう・・・」
2014.08.09 to 2014.08.10 12.00-19.00
Opening 2014.08.08 from 17.00
Youkobo Art Space * Studio 2 (2F)
http://www.youkobo.co.jp/en/access/
http://www.dunhillandobrien.co.uk
文化庁

4. 掲載記事

日付	メディア / 内容
04.09	東京新聞 「現代アートパトロンプロジェクト - 作家と出会いの場」
04.15	月刊ウェンディ 「海外からのアーティストを受け入れて四半世紀 村田達彦」
05.21	日本経済新聞 「海外芸術家 いらっしゃい 村田達彦」
11.20	東京新聞 「善福寺公園 アートと踊る」
	他美術関連雑誌コレクター、Art Navi、月刊ギャラリーなどに掲載

遊工房アートスペース 年間報告 2014

編集 : 遊工房アートスペース
〒167-0041 東京都杉並区善福寺 3-2-10
TEL: 03-5930-5009　FAX: 03-3399-7549
E-mail: info@youkobo.co.jp
URL: http://www.youkobo.co.jp

2015 年 2 月発行

© 遊工房アートスペース